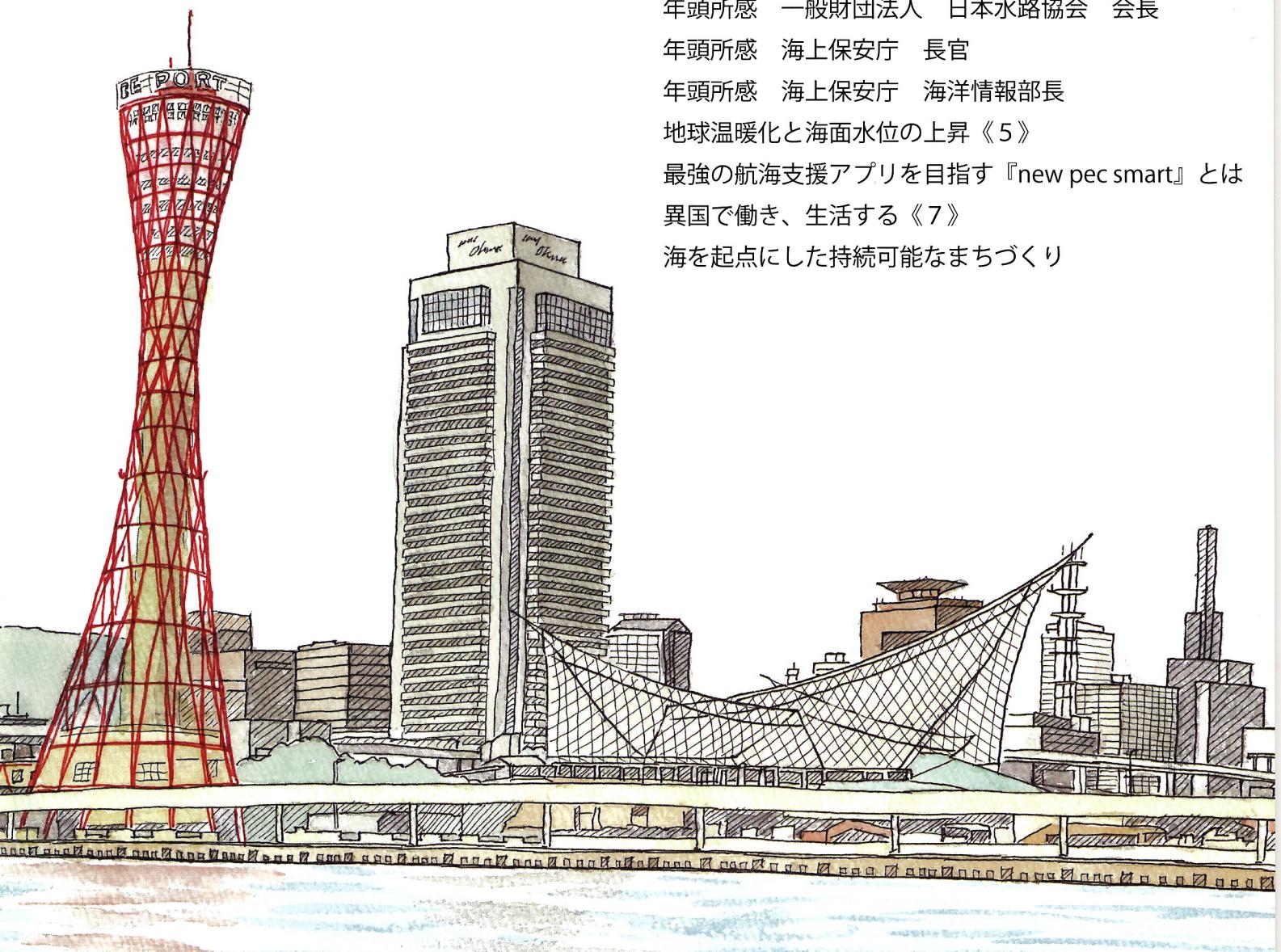


季
刊

水路 208

年頭所感 一般財団法人 日本水路協会 会長
年頭所感 海上保安庁 長官
年頭所感 海上保安庁 海洋情報部長
地球温暖化と海面水位の上昇《5》
最強の航海支援アプリを目指す『new pec smart』とは
異国で働き、生活する《7》
海を起点にした持続可能なまちづくり

一般
財団法人 日本水路協会<https://www.jha.or.jp/>

Jan. 2024

海を起点にした持続可能なまちづくり —国際環境認証「ブルーフラッグ」の取得推進を通して—

アジア航測株式会社 壱岐 信二

NPO 法人湘南ビジョン研究所 理事長 片山 清宏

1. はじめに

新型コロナウイルスが2023年5月8日から感染症法上の5類に移行された結果、人々の動きが活発になり、今夏は湘南の各海水浴場にも多くの海水浴客が訪れ賑わいを見せた。一方で、海水浴客や観光客によるバーベキューのごみ放置問題など、湘南地域特有の課題も未だ多いのが現状である。

湘南に基盤を置くNPO法人湘南ビジョン研究所は、こうした海の環境問題を解決するため、2011年から海辺の国際環境認証「ブルーフラッグ」(以下「BF」とする)に着目し、BF認証の取得を目指す地域の支援を行ってきた。その結果、2023年11月現在、湘南では4か所でBFが認証され、国内全体では図

1に示す11か所となった。当研究所から始まったBF活動は、行政や企業、住民を巻き込み、「海を起点とした持続可能なまちづくり」へと発展しつつあり、NPOの環境活動の成功事例としてメディアに取り上げられることも増えている。なぜ、一NPOの活動が、まちづくりへ影響を及ぼすことができるようになったのだろうか。

本稿では、当研究所のBF活動の経緯を追うことで、なぜ、NPOが地域の多様なステークホルダーとパートナーシップを組み、「海を起点にした持続可能なまちづくり」へと発展させることができたのかを明らかにし、BFの社会的効果と今後の可能性を考察する^{1),2)}。

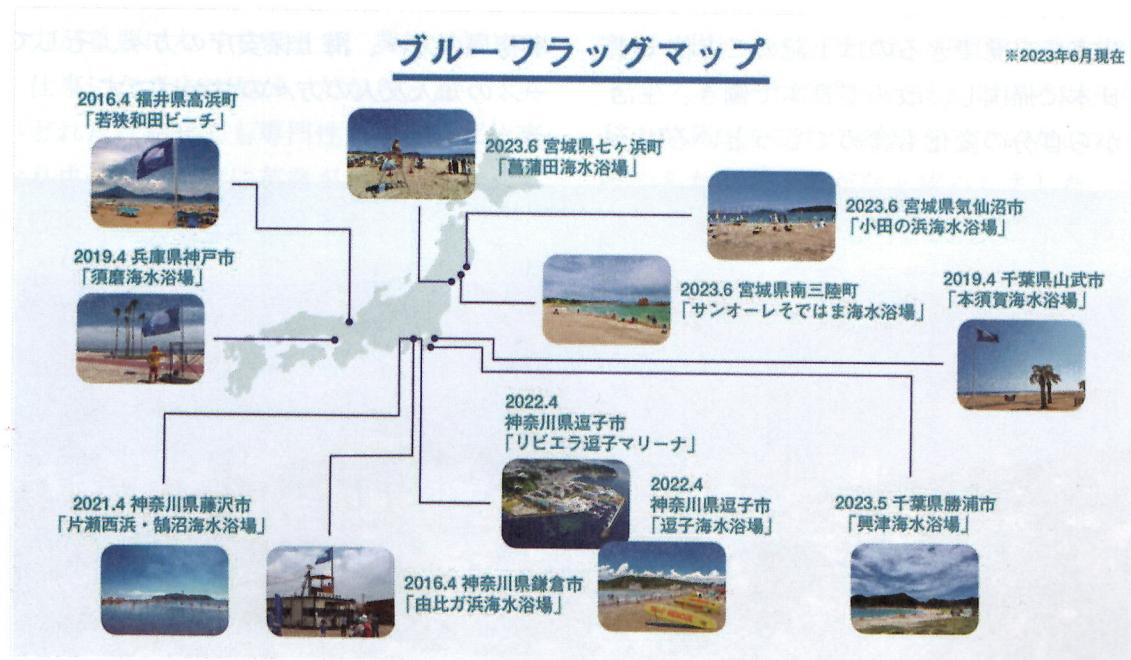


図1 日本のブルーフラッグ取得箇所

2. ブルーフラッグとは

BF とは、国際 NGO FEE (Foundation for Environmental Education 国際環境教育基金) が実施するビーチ・マリーナ・観光ボートを対象とした世界で最も歴史ある国際環境認証制度である。1985 年にフランスで誕生し、2023 年 11 月現在、世界 51 か国、5,036 か所が BF 認証を取得している。特にヨーロッパでの認知度は高く、BF ビーチは「きれいで安全安心で誰もが楽しめる優しいビーチ」として、多くの人々がバカンスに訪れる。

ビーチの認証基準は、①水質、②環境教育と情報、③環境マネジメント、④安全性・サービスの 4 分野 33 項目あり、全ての基準を達成すると BF に認証され、ビーチに旗を掲げることができる(図 2)。BF は SDGs の 17 ゴールすべてに関連しており、FEE では UNEP (国連環境計画) や UNWTO (国連世界観光機関) と連携して、世界各国でこのプログラムを推進している。BF は毎年の審査を通じて、ビーチ等における持続可能な発展を目指している。



図 2 ブルーフラッグ旗 (2021 年 4 月)

3. 湘南地域特有の魅力と課題

湘南地域は、温暖な気候と相模湾を臨む雄大な海岸の景観が魅力で、年間入込観光客数約 5,100 万人を誇る日本有数のマリンリゾート地である。一方で慢性的な渋滞、治安の悪化、開発による自然環境の喪失、津波対策など湘南特有の課題も抱えており、特に、海水浴客や観光客によるバーベキューのごみ、花

火大会後のごみ放置など、海ごみ問題は深刻である。

公益財団法人かながわ海岸美化財団によると、美化財団が 1991 年から 2019 年までに湘南海岸で回収処理した年間の海岸ごみ処理量は、各年で台風等の影響によってばらつきがあるが年間 4,000t~5,000t あり、約 30 年間、ほぼ海岸ごみは減少していない。当財団の調査によると、湘南海岸のごみの 7 割は街から川を経由して流れてくることがわかっており、海岸ごみを減らすためには、発生源の河川や街を含めた地域全体で、行政、企業、住民が協力して対策に取り組む必要がある。



図 3 湘南の「片瀬西浜・鵠沼海水浴場」

4. 湘南都市構想 2022 の策定

このような問題を克服するために活動している団体が NPO 法人湘南ビジョン研究所である。当研究所は、湘南地域の持続可能なまちづくりをめざし、2011 年 5 月 (NPO 法人化 2013 年 12 月 12 日) に設立された。正会員 100 人。「海を守り、未来をつくる。」をスローガンに、①海辺の国際環境認証「ブルーフラッグ」の取得推進、②海の環境教育に特化した市民大学「湘南 VISION 大学」の運営の 2 事業を展開している。

当研究所の理事長である片山は、藤沢市鵠沼エリアで生まれ育ち、高校からウインドサーフィンに熱中し始めたことから、海の環境へ関心を抱き、厚木市職員を経て 2010 年 4 月に松下政経塾に入塾したことをきっかけに、海ごみ問題の研究に没頭した。「海岸をいくら

掃除していくても根本的な解決にならない。発生源の川や街を含めた地域全体で行政や企業と協力して取り組まないと解決できない」との考えに至ったとき、立教大学の石井昭夫教授（当時）が監証した論文「海岸環境改善のための報奨制度～ブルーフラッグ運動の例～」に出会い、2011年5月に当研究所を設立、「湘南海岸で日本初のBF取得を目指す」と宣言し、活動を始めたのが経緯である。

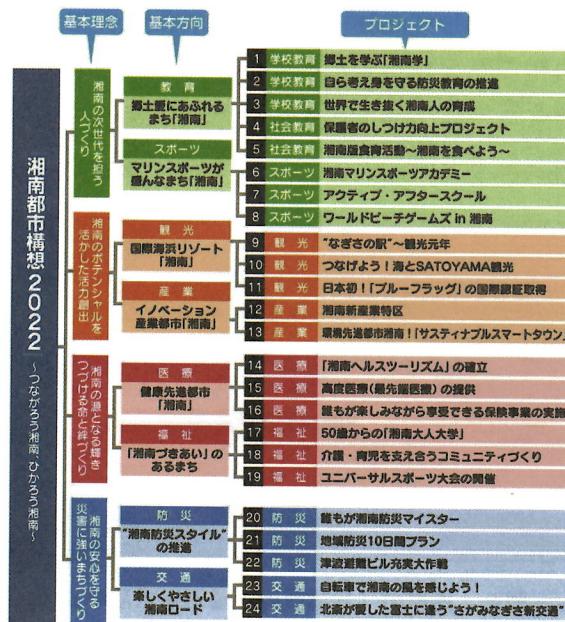


図4 湘南都市構想2022

その後、湘南海岸でBFを推進するためには、個々の自治体の枠を超えた広域的な「まちづくりビジョン」を作成する必要があると考え、壱岐らメンバーと80回の会議、延べ1,200人の住民の参加を得て、2012年から図4の「湘南都市構想2022」をまとめ始め、2013年2月に湘南地域の8市町（葉山町、逗子市、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、平塚市、大磯町、二宮町）の首長に「海辺の国際環境認証ブルーフラッグの取得推進」を提言した。

5. 湘南でアジア初のBF取得

(1) 経緯

2013年当時、アジアでBFを取得した事例は一つもなかったこともあり、湘南地域の8市町の首長への提言は受け入れてもらえなか

った。しかし、そのような状況の中で唯一、鎌倉市の由比ガ浜茶亭組合の増田組合長がBFの可能性に賛同してくれたことで、取得に向けた取組が国内で初めてスタートした。当研究所は、当組合の協力の元、由比ガ浜でBF取得に必要な水質や安全リスクの調査、バリアフリー整備、環境教育、BFを紹介するフリーペーパー作成、市内の小中学校や市民団体でのBF講演などの取組を実施した。その結果、鎌倉市の松尾市長がBFの趣旨に賛同し、由比ガ浜海水浴場でBF取得を目指すことを記者会見で発表。最終的には、2016年4月、コペンハーゲンで開かれたFEEの国際審査委員会で由比ガ浜海水浴場が福井県高浜町「若狭和田海水浴場」とともにアジア初のBFに認証された。5年越しの活動の苦労が報われた瞬間だった。

(2) BFの水質調査

BFは1年ごとに更新があり、基準が満たされないと認証が取り消されてしまう。審査項目の要でもある水質は、海水浴場開設前に1回、同開設中には初回申請時は20回、更新時は5回の調査が必要とされている。そして、糞便性大腸菌群数と腸球菌の値が基準を達成しなければならない。

2021年、逗子海水浴場では初回申請時のための水質調査を22回実施した。採水は海水浴場監視所のライフセーバー(図5)が行い、濃度分析は計量証明事業者が実施した。図6の水質調査結果では、糞便性大腸菌群数、腸球菌とともに100個/100mLを超えた日はなく安定しており、また、濁度の最大値は3.3度、浮遊性物質では28mg/Lと低い値であった。また、同期間の気象状況によると、108mm



図5
ライフセーバーによる採水

のまとまった降雨があった8月15日以降の水質調査結果を見ると、8月17日と19日の糞便性大腸菌群数は7個／100mL、腸球菌は7～8個／100mLと低い値であり、降雨の影響は見られなかった。

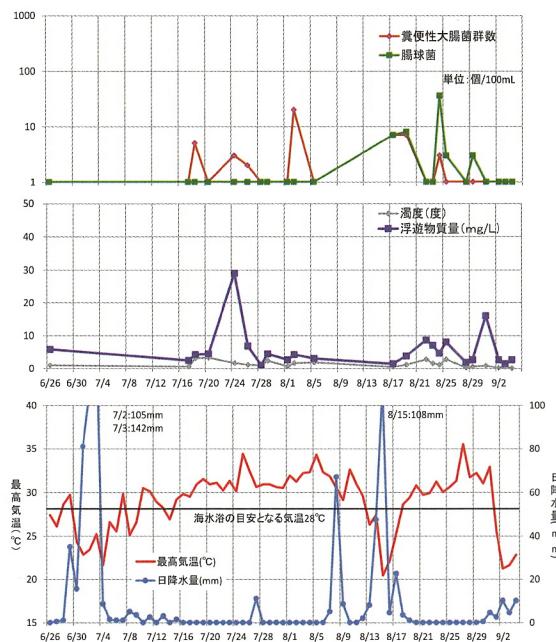


図6 水質調査結果と気象条件

(3) 専門団体と連携したBF活動

BF認証を取得して大きく進展のあったことの一つに「安全性・サービス」カテゴリーのバリアフリー対策がある。当法人ではバリアフリー調査を行い、車いすのまま海の家にスムーズに入れるか、シャワーが実際に使用できるか、波打ち際までのアプローチなどを細かくチェックする。これまで、車いすの人が海に入る場合、介添人が車いすの人を背負って水際へ連れて行くなどするため、両者にとって海水浴は大きな負担となっていた。このため、水陸両用車椅子を購入して、砂浜にモビマット（図7）を敷くことで、水陸両用車椅子がスムーズに水際までの移動を可能とした。同じカテゴリーの海・浜ルールについても禁酒・喫煙のマナー徹底やルールブックを作成して、利用別のゾーニングを行うなど、安全性を担保している。

以上、BFは行政や海水浴場組合、各分野

を専門とする民間団体らが連携して活動することで継続性が維持されている。水質調査は海水浴場開設期間が35日程度の短い地域では、初回申請時に20回分の基準を達成する必要がありハードルは高いが、認証を取得すれば国際的に認知される（鎌倉市由比ガ浜海水浴場の組合長の話では、2023年シーズンはブルーフラッグビーチを目指した欧米人の来訪が非常に増えたとのこと）。さらに、海水浴場開設期間に限定されるが、水質調査データの蓄積という意味でも貴重となる。



図7 モビマット（写真は通常の車いす）

(4) BLUE FLAG Japanサミットの開催

2019年4月に国内で4か所のBF認証海岸が誕生したことを契機に、日本全国にBFの情報を発信していきたいと考え、当研究所が主催者となり、「BLUE FLAG Japanサミット」を開催することにした。本サミットは、日本国内BF取得都市のBF関係者が一堂に会する日本初のシンポジウムで、BF認証取得の意義を再確認し、認証ビーチ等の成果と課題を共有するとともに、国内におけるBF認証地域の普及による海辺からのSDGsの実現に貢献することを目的にしている。

第1回サミットは、2019年12月、江ノ島のヨットハウスにて開催（図8）。当研究所、文教大学湘南総合研究所、NPO法人FEE Japanの3団体が主催し、鎌倉市、高浜町、神戸市、山武市、神奈川県や各種メディアにご後援をいただいた。当日は、BFに関する基調講演、先進事例発表を実施。パネルディ

スカッションでは、「海でつながる人・まち・未来～ブルーフラッグ活動を広げるために、私たちができること～」をテーマに議論し、終了後は、地元食材を使った料理を提供し、全国から集まった 150 人の BF 関係者と懇親を深めた。

本サミットは 2019 年から毎年開催しており、2023 年 12 月に 5 回目を開催する。BF 関係者が相互に成果や課題を共有し、また、これから取得を目指す海岸関係者にとっても貴重な情報やノウハウを得ることができる有意義な機会となっている。



図 8 BLUE FLAG Japan サミット

6. 湘南 VISION 大学の開校

由比ガ浜海水浴場がアジア初の BF を取得了後、当研究所はもう一つのプロジェクトに取り掛かった。海の環境教育に特化した市民大学「湘南 VISION 大学」の設立である。

BF 取得を目指して活動する中で、BF 活動の中心は海の専門家や行政、海岸関係者などに限られ、一般市民の参加が極端に少ないと感じていた。そして、「多くの人にまずは海を楽しんで海を好きになってもらえば、海の環境保全に協力してくれる人が増え、BF 活動の裾野も広がっていくはずだ」と考え、3 年間の準備期間を経て、2018 年 5 月、海の学び場「湘南 VISION 大学」を開校した。

当大学は、「『海を守り、未来をつくる』人をつくる」をミッションとした、子どもからお年寄りまで、誰もが参加できる市民大学である。キャンパスは「湘南の海」、「海をもっと楽しもう！」をテーマにプロセーラーと共に

海上を周遊する「クルージング体験(図 9)」、新しい海の楽しみ方を体感する「ビーチナイトピクニック」、元プロ野球選手による「ビーチでキャッチボール」、環境と健康をテーマにした「サンセットビーチヨガ」、湘南の食材を使った「シーフード料理教室」などユニークな授業を揃えている。

各授業は、SDGs の 17 ゴールに紐付けされており、SDGs 推進の具体的なアクションを生み出す場にもなっている。5 年間で 223 講座開催、合計 7,349 人の生徒が受講し、運営理念に共感してくれた生徒が受講後に運営スタッフや先生になるなど新たな動きも出てきている。

結果的には、BF 活動に関わる人材を多数輩出することとなり、BF 活動の裾野を広げることに繋がった。この成功モデルを全国の BF ビーチや、これから BF 取得を目指している地域に広げていくことで日本の BF をさらに推進できると考えている。



図 9 湘南 VISION 大学の活動状況

7. 多様なステークホルダーとの協働

2011 年に任意団体としてスタートした当研究所は、海の環境問題を解決する手段として「アジア初の BF 取得」を目標に掲げた。2013 年には NPO 法人となり、自治体や企業、住民を巻き込み、BF 活動の輪を大きく広げていった。なぜ、一 NPO が多様なステークホルダーを巻き込み、協力関係を築いていったのか、当研究所はそのための仕掛けをつくった。

第 1 の仕掛けは、「湘南都市構想 2022」と

いう地域の目指すべきまちづくりビジョンと、「BF 認証の取得」という明確で具体的な目標を提示したこと。当該自治体及び地域貢献をしたい企業、市民団体、住民に分かりやすいビジョンと目標を示すことで、それに向かって各自が自分の役割を担うことができ、達成感を感じながら BF 活動に参画できるようになっている。

第 2 の仕掛けは、BF 活動を担う人材を集めて育てる場として「湘南 VISION 大学」を設立したこと。誰でも参加できる市民大学の形態にすることで毎年 1,000 人以上の受講者が参加し、多様な市民参加を促す機会となり、BF 活動の裾野を広げることができている。

第 3 の仕掛けは、BF 認知度向上のためのプロモーション活動として、フリーペーパー「ソーシャルマガジン『SHONAN VISION』」を毎月発行し続けていること。ホームページや SNS へも掲載することで、BF 認知度の向上に役立つとともに、自治体や企業、学校、市民団体とのコラボレーションイベントの実施など、副次的な効果も生み出している。

第 4 の仕掛けは、国内 BF 取得都市の BF 関係者が一堂に会する「BLUE FLAG Japan サミット」を毎年開催していること。関係者が相互に BF の成果や課題を共有できるとともに、これから取得を目指す海岸関係者にとっても貴重な情報やノウハウを得ることができる有意義な機会となっている。

8. おわりに

当研究所は、湘南を中心に BF を推進することで、海の環境問題の解決を目指してきたが、その過程で行政や企業、市民団体、学校など多様なステークホルダーとの協働が生まれてきた。これは中立的な立場である NPO だったからこそ可能だったと考えられる。そのような観点から言えば、当研究所の BF 活動によって地域の多様なパートナーシップを生み出し、「海を起点にした持続可能なまちづくり」へと発展してきたと言える。これは、

NPO による地域の課題解決のモデルの一つとなると考えられ、SDGs をローカルレベルで実践している成功事例と言えるだろう。

湘南での BF の取組は全国に広がりつつある。国も政策として BF 取得を推進しており、例えば観光庁では、2022 年度から、海の魅力を高め国内外からの誘客と観光客の定着を図るため、ブルーツーリズム推進事業を実施している。本事業は、地域における、①海水浴場等の受入環境整備、②海の魅力を体験できるコンテンツの充実、③海にフォーカスしたプロモーション、④BF 認証の取得に向けた取組を支援するものである。この事業によって、2023 年度に、宮城県の気仙沼市「小田の浜海水浴場」、南三陸町「サンオーレそではま海水浴場」、七ヶ浜町「菖蒲田海水浴場」の 3 か所で BF が取得された。

2011 年に始まった当研究所の BF 活動は、「海を起点にした持続可能なまちづくり」に発展し、全国に広がりを見せており。NPO 活動の一人ひとりの力は限りなく小さいが、その純粋な想いや熱意は伝播すると大きな力になる。私たちは、住民の力で海の環境問題を解決できると信じている。これからも、「海を守り、未来をつくる」のスローガンを胸に、全国のたくさんの仲間とつながって、一緒に行動し、この素晴らしい日本の海を守り、持続可能な社会の発展に貢献していきたい。

＜参考文献＞

- 1) 壱岐信二・片山清宏・久保卓・福室貴雅：市民で SDGs を実践する—湘南 VISION 大学とブルーフラッガー、日本船舶海洋工学会・日本海洋工学会、第 29 回海洋工学シンポジウムセッション OS-3, oes29-0012, 2022.
- 2) 片山清宏 (2022) 「海を起点にした持続可能なまちづくり～海辺の国際環境認証「ブルーフラッグ」取得を通じて～」(『河川』令和 5 年 8 月号、公益社団法人日本河川協会, 2-5)